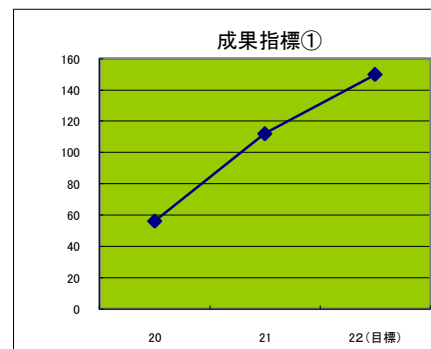
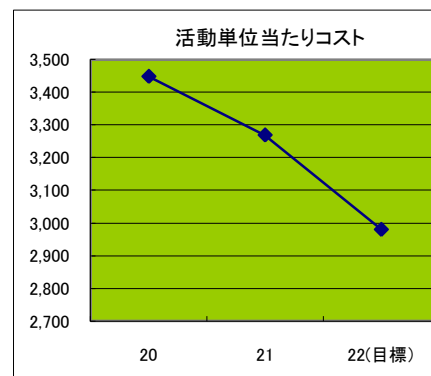


事務事業名		ボランティアセンター活動助成事業		予算科目	会計	1	一般会計	
					款	3	民生費	
					項	1	社会福祉費	
					目	2	社会福祉事業費	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	2	健康で生き生きと暮らせるやさしいまち	事業	5	社会福祉対策		
	施策(節)	2	地域福祉					
	施策の方向	(2)	地域における福祉サービスの適切な利用の促進	作成部署				保健福祉部福祉総務課
関連する計画等				羽曳野市地域福祉計画、羽曳野市民福祉活動計画				
事業の目的	対象(誰を・何を)			連絡先				072 - 958 - 1111 内線 1121
	ボランティア活動者(市民)							
	意図(どういう状態にしたいのか)							
事業の内容	ボランティア活動の活性化とボランティア連絡会の組織強化を図る。							
	ボランティアセンター(市役所別館2F)を拠点に、各種ボランティアスクール・研修・講習を開催するほか、ボランティアの募集にもつとめる。また、市民ニーズのある事業へのボランティアの派遣等、ボランティアの需給調整を行う。事務局となっている羽曳野市社会福祉協議会への助成事業							
根拠法令等		羽曳野市社会福祉協議会助成金交付要綱						
事業開始時期		☐ 昭和 元 年開始 ☐ 明確にはわからない ☒ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている			終了年度 平成 年度			
事業開始時からの状況変化		平成21年度より助成額を減額している。						
市民や議会の要望								
実施手法		☐ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☒ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先		☐ 市外郭団体委託 名称() ☐ 民間委託 ☐ その他			委託内容			

区 分		20年度	21年度	22年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		750	700	700
人件費【2】 (千円)		150	150	75
職員数	正規職員	0.02 人	0.02 人	0.01 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		900	850	775
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	900	850	775
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		20年度	21年度	22年度(目標)
① ボランティアセンター利用日数	日	261	260	260
② ボランティア登録者数	人	750	949	950
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		3, 448 円	3, 269 円	2, 981 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		8 円	7 円	7 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名	単位	指標設定の考え方	平成20年度		平成21年度		平成22年度
	①	人	ボランティアの担い手の育成につながる。	目標	100	100	達成率(%)	150
				実績	56	112	112.0%	
	②	件	ボランティアに関する需要と供給の調整を通じて、ボランティア活動の実施につなげる。	目標	230	200	達成率(%)	230
				実績	171	208	104.0%	

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	ボランティア自体は収益が見込めず、補助なしでの運営は考えられないため、助成は必要である。

視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	市民ボランティアを養成し協働していくのは、地域福祉の向上のために、必要不可欠なことである。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
	社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	緊急性が認められる	☒	☐	☐	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	事業自体がボランティアなど民間活力を活用しており効率的に運営されている。
	受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☐	☒	☐	
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	これまで以上の参加を増やす努力は必要であり、市民のニーズとあった事業であるか検討も要する。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
	成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐	
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☒	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☒	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☐	☒	
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	潜在的なボランティアの掘り起こしも必要である。
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当 部局 評価	総合評価
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了
	評価の理由
	ボランティア連絡会が中心となって自主的なボランティア活動の活性化を図っておられ、今後もこのような市民協働の場が益々地域福祉の充実には重要なものとなると思われる。
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)
行 事 本 部 評 価	地域福祉の核となる時間の余裕のできた団塊の世代が参加しやすいボランティアの輪を広げることが今後の地域福祉の充実には不可欠であり、そのためにも助成を拡充してを継続していく必要がある。
	総合評価 評価理由・意見
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善
	☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了